

2 研究の実際

(1) 新学習指導要領に関わる理論研究

ア 育成を目指す資質・能力の明確化

平成 29 年 3 月に幼稚園教育要領, 小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領が公示されました。今回の改訂においては, 全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」, 「思考力, 判断力, 表現力等」, 「学びに向かう力, 人間性等」の三つの柱で再整理されています。

小学校学習指導要領解説社会編では, 三つの柱に沿った資質・能力が以下のように示されています⁽¹⁾。

- 小学校社会科における「知識」は, 地域や我が国の地理的環境, 地域や我が国の歴史や伝統と文化, 現代社会の仕組みや働きを通して, 社会生活についての総合的な理解を図るためのものであるといえることができる。
- 小学校社会科における「技能」は, 「社会的事象について調べまとめる技能」である。
- 小学校社会科における「思考力, 判断力」は, 社会的事象の特色や相互の関連, 意味を多角的に考える力, 社会に見られる課題を把握して, その解決に向けて, 学習したことを基に, 社会への関わり方を選択・判断する力である。
- 小学校社会科で養う「表現力」とは, 考えたことや選択・判断したことを説明する力や, 考えたことや選択・判断したことを基に議論する力などである。
- 小学校社会科における「学びに向かう力, 人間性等」は, 「よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度」と, 「多角的な考察や理解を通して」涵養される自覚や愛情などである。

文部科学省 『小学校学習指導要領解説社会編』 平成 29 年 7 月 pp21-24

本研究委員会では, 三つの資質・能力をそれぞれ資料 1 のように捉えました。

- 「知識」
 - ・社会的事象についての理解。獲得する知識が, 個別の具体的な事実に関する知識からそれらに関連付けた知識, 概念等に関する知識へと高まるにつれて, 社会的事象についての理解が深まると捉える。
- 「技能」
 - ・学習問題や本時のめあてを解決するために, 必要な資料を集める技能。
 - ・学習問題や本時のめあてを解決するために, 資料から必要な情報を正確に読み取る技能。
 - ・学習問題や本時のめあてを解決するために, 資料から読み取った情報を白地図や年表などにまとめる技能。
- 「思考力, 判断力, 表現力等」
 - ・社会的事象の特色や相互の関連, 意味について, 自分の立場だけでなく, 様々な立場に置き換えて考え, 選択・判断する力。また, 社会的な問題を把握し, 解決のためにどのように社会に関わるべきかを考え, 選択・判断する力。
 - ・自分の考えを他者に分かりやすく話したり, 記述したりすることができる力。
- 「学びに向かう力, 人間性等」
 - ・学習問題について切実感をもって意欲的に調べたり, 調べたことを基によりよい社会について考えようとしたりする意欲や態度。
 - ・社会的事象について自分達の生活と照らし合わせて考えようとする意欲や態度。
 - ・調べたことや考えたことを基に, 今後の自らの生活に生かせることはないか考えようとする意欲や態度。

資料 1 本研究委員会で捉える三つの資質・能力

イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

小学校学習指導要領解説社会編においては、児童にこれからの時代に求められる資質・能力を身に付けさせるために、「これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められる」⁽²⁾とあります。従来の授業を「主体的・対話的で深い学び」の視点で捉え直すこと、つまり、教師の指導及び児童の具体的な姿を想定した上で、それらを視点として授業の質的改善を行い、児童に資質・能力を身に付けさせることが重要であると考えます。そこで本研究委員会では、資料 2 のように「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく児童の具体的な姿を整理しました。

○主体的な学び

- ・ 社会的事象に興味や関心をもっている。
- ・ 目的意識をもって追究活動を行っている。
- ・ 自らの学習を振り返り、次の学習につなげている。

○対話的な学び

- ・ 個人で調べたり考えたりしたことを、他者と交流したり、議論したりすることで、新たな考えに気付いている。
- ・ 個人で調べたり考えたりしたことを、他者と交流したり、議論したりすることで、自分の考えを広げている。
- ・ 個人で調べたり考えたりしたことを、他者と交流したり、議論したりすることで、自分の考えをより妥当性のあるものにしていく。

○深い学び

- ・ 社会的事象についての見方・考え方をを用いて、社会的事象の中から自ら問いを見いだしている。
- ・ 社会的事象についての見方・考え方をを用いて、調べたことを関連付け（つなげ）たり、総合し（まとめ）たりして考え、社会的事象に対する理解を深めている。
- ・ 社会的事象についての見方・考え方をを用いて、様々な社会的事象の意味や特色について考えていく。

資料 2 本研究委員会で捉える「主体的・対話的で深い学び」について

ウ 社会的事象の見方・考え方

小学校社会科の教科の目標においては「社会的な見方・考え方を働かせ」という文言が、小学校社会科各学年の目標においては「社会的事象の見方・考え方を働かせ」という文言が、それぞれ盛り込まれました。小学校学習指導要領解説社会編では、「社会的な見方・考え方」が、以下のように示されています⁽³⁾。

「社会的な見方・考え方」は、小学校社会科、中学校社会科において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」であると考えられる。……「社会的事象の見方・考え方」は、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して（視点）、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）」と考えられ、これらは、中学校社会科の各分野の学習に発展するものである。「社会的事象の見方・考え方を働かせ」とは、これらの視点や方法を用いて、社会的事象について調べ、考えたり、選択・判断したりする学び方を示している。

文部科学省 『小学校学習指導要領解説社会編』 平成29年 7月 p.18

また、小学校学習指導要領解説社会編では、「社会的な見方・考え方を働かせる」とは、「社会科，地理歴史科，公民科としての本質的な学びを促し，深い学びを実現するための思考力，判断力の育成はもとより，生きて働く知識の習得に不可欠であること，主体的に学習に取り組む態度にも作用することなどを踏まえると，資質・能力全体に関わるものであると考えられる」⁽⁴⁾とされています。「社会的事象の見方・考え方」は三つの資質・能力の育成と密接な関連があり，それ自体は育成するものというよりも，児童に働かせるものであり，児童が用いて，自ら鍛えていくということが分かります。「社会的事象の見方・考え方」について，本研究委員会では資料 3 のように整理しました。

学習の問題を追究したり解決したりする際に，用いられる視点や方法
 例えば，その視点（社会的な見方）として以下のようなものがある。

- ・位置や空間的な広がり（自分たちの身の回りの地域，市町村，県，日本，世界）
- ・時期や時間の経過（現代までの歴史的な時期，時間の経過に伴う変化や発展など）
- ・事象や人々の相互関係（社会的事象に関わる人々の願い，働きや対策，それらに伴う工夫や努力，働きによって生じた影響など）

例えば，その方法（社会的な考え方）として，比較したり，関連付けたり，総合したりする思考方法がある。

資料 3 本研究委員会で捉える「社会的事象の見方・考え方」について

では，社会的事象の見方・考え方を働かせるには，どのようなことを意識して授業づくりを行えばよいのでしょうか。澤井陽介は，社会的事象の見方・考え方を働かせるために以下の 4 つの条件を述べています⁽⁵⁾。資料 4 は，その条件についての説明を本研究委員会で抜粋し，整理したものです。

- ① 問いの構成の工夫
 問いを単元等のプロセスの中でどのように構想するかが大切です。学習問題（課題）と毎時の問題（課題）における問いはどのようにつながり，どのように特色や意味に迫っているか，あるいはどのように社会への関わり方の選択・判断につながっているかなど，単元を通した問いの構成を工夫して，子供が社会的事象の見方・考え方を働かせるように授業設計をすることが第一の条件です。
- ② 教材化の工夫
 …社会的事象の特色や相互関連，意味を考え，社会生活についての理解につなげるために，どのような視点が単元のどの段階で必要になるかを考え，授業設計をすることが第 2 の条件です。
- ③ 資料提示の工夫
 地図を見せれば，子供が空間的な広がりに着目するわけではありません。年表を見せれば時間の経過に着目するわけではありません。ここには，資料の適切な加工の仕方や提示の仕方が必要になります。……また，比較・分類，総合，関連付けについても，「比較しなさい」「関連付けなさい」では，子供が「見方・考え方」を用いたことにはなりません。子供が比較するように，関連付けるように資料の加工や提示を工夫することが大切です。
- ④ 対話的な学習活動の工夫
 …授業では，子供同士の交流によって，多様な「見方・考え方」へと鍛えられていくことも大切にしたいものです。そもそも教師が地図を示しても，「つながり」や「協力」に着目したり，「時期」や「持続性」に着目したりするなど，子供の見方は多様です。教師は，それらを否定し，「地理」だけを見せる必要はないのです。……対話的な学びが生まれるよう学習活動を工夫して，子供が社会的事象の見方・考え方を自ら働かせるように授業設計することが第 4 の条件です。

資料 4 澤井による「見方・考え方を働かせるための 4 つの条件」（本研究委員会が一部抜粋したもの）

前頁資料 4 から、社会的事象の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成するために、授業づくりにおいて大切にしたいポイントが見えてきます。

①②からは、単元を通して学習問題を常に意識させることが大切であることが分かります。毎時間の学習課題（本時のめあて）は、単元の学習問題に内包されている関係にあり、児童には学習課題の追究を行わせると同時に、学習問題の解決にどのようにつながっているのかを常に意識させることが大切であると考えます。

③からは、児童に提示する資料には加工を加えたり、資料提示に工夫を施したりして、児童の興味・関心を高めることが大切であることが分かります。特に、学習過程「学習課題の把握（図 1 参照）」においては、児童に疑問をもたせ学習内容に対する追究意欲を高める必要があります。資料提示の工夫を行い、児童の気付きや疑問を基に学習問題を設定することが大切です。また、追究活動においても、その学習問題を意識させながら、資料提示の工夫等によって追究の視点を確認していくことが大切です。

④からは、単元の中で、対話的な学習活動を適切に取り入れることが大切であることが分かります。対話的な学びが必要と言われているから取り入れるということではなく、教師が意図的に取り入れることが必要です。また、教師側だけでなく、児童にとっても「話し合いたい」「話し合わなければ解決しない」と対話的な学習活動の必要性や必然性が生まれるものでなければならぬと考えます。

エ 資質・能力を育成する単元構成

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善においては、「1 回 1 回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること」⁽⁶⁾とされています。また、『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』別添資料の中で、社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージが図 1 のように示されています。

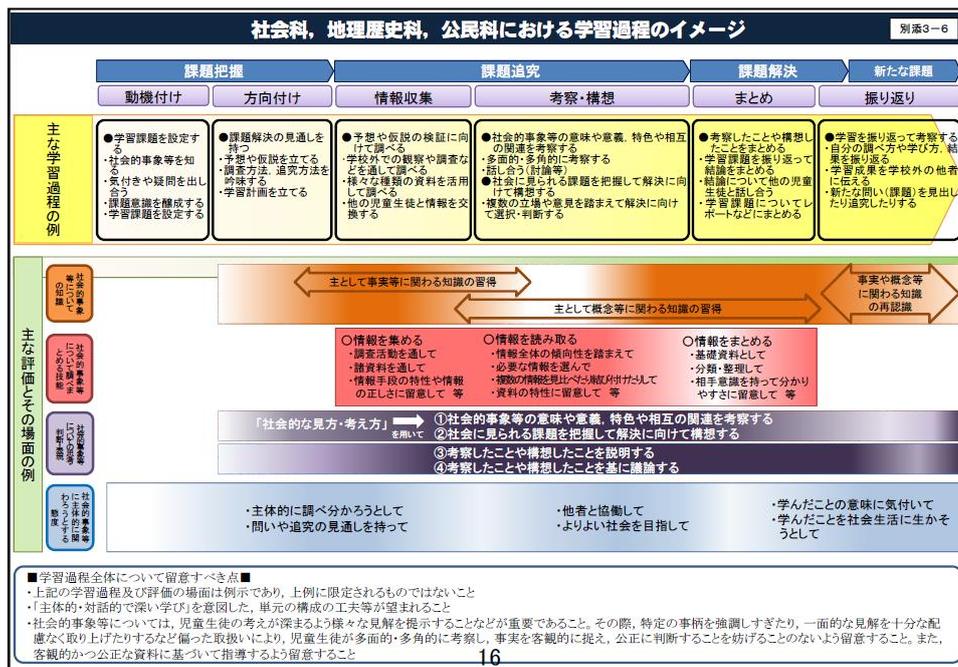


図 1 社会科，地理歴史科，公民科における学習過程のイメージ⁽⁷⁾

単元の学習過程が、「課題把握（動機付け，方向付け）」「課題追究（情報収集，考察・構想）」「課題解決・新たな課題（まとめ・振り返り）」で構成されていることが分かります（※「課題解決」の過程において，学習課題についてまとめたり振り返ったりすることを通して，新たな学習課題を見出すことがあることから，本研究委員会では「課題解決・新たな課題」と1つの過程として捉えます）。また，小学校社会科の教科の目標に，「社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して……」⁽⁸⁾とあり，この「課題を追究したり解決したりする活動」については，「社会科，地理歴史科，公民科の特質に応じた学び方を示している。」⁽⁹⁾と示されています。「課題を追究したり解決したりする活動」について，小学校学習指導要領解説社会編において，以下のように示されています⁽¹⁰⁾。

三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには，社会科，地理歴史科，公民科において，児童生徒が課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。それらは，習得した知識や技能を活用して，調べたり思考・判断したり表現したりしながら課題を解決する一連の学習過程において，育成されるものと考えられるからである。……

そうした活動の充実を図るには，小学校社会科においては，学習の問題を追究・解決する活動，すなわち問題解決的な学習過程を充実させることが大切になる。問題解決的な学習とは，単元などにおける学習問題を設定し，その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ，社会的事象の特色や相互の関連，意味を考えたり，社会への関わり方を選択・判断したりして表現し，社会生活について理解したり，社会への関心を高めたりする学習などを指している。（下線部：引用者）

文部科学省 『小学校学習指導要領解説社会編』 平成29年7月 pp.19-20

下線部より，三つの資質・能力を育成するためには，課題を追究したり解決したりする活動，つまり問題解決的な学習過程を充実させることが大切であることが分かります。「問題解決的な学習の充実」については，現行の学習指導要領における改訂の基本方針の中でも示されていることから，これまで社会科が進めてきた改善の方向性を変えることなく，更に推進するものであると考えられます。なお，下線部より，「課題を追究したり解決したりする活動」とは，「学習の問題（学習問題）を追究・解決する活動」と同義であると捉えます。

オ 各学習過程における「主体的・対話的で深い学び」

では，「学習の問題（学習問題）を追究・解決する活動」を充実させるためにはどのようにすればよいのでしょうか。小学校学習指導要領解説社会編に「問題解決的な学習過程の充実を図る際には，主体的・対話的で深い学びを実現するよう，児童が社会的事象から学習問題を見だし，問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し，追究結果を振り返ってまとめたり，新たな問いを見いだしたりする学習過程などを工夫することが考えられる。（下線部：本研究委員会）」⁽¹¹⁾とあります。社会科の授業の質的改善を図っていくためには，学習問題を追究・解決する活動の各過程において，「主体的・対話的で深い学び」の視点で児童の学習活動を捉える必要があると考えます。北俊夫は，社会科において，「主体的・対話的で深い学び」を実現させるポイントを以下のように述べています⁽¹²⁾。次頁資料5は，そのポイントを本研究委員会で整理したものです。

- ① 問題設定の場面においては、学習問題をどのように設定するか。根拠のある予想をどう促すか。問題解決の計画をどのように設定するか。根拠のある予想をどう促すか。問題解決の計画をどう立てさせるかなど、問題解決の見通しをもたせることが課題である。
- ② 学習問題を追究する場面では、調査活動や資料活用などを通して、必要な情報をいかに収集し、分析させるか。
- ③ まとめる場面では、これまでの学習を振り返り、調べたことを基にどう結論を生み出すか。残された課題は何かをどう明確にするかなどが課題である。
- ④ 生かす場面を設定している場合には、学習成果を生かして、自分にできることやよりよい社会の在り方を考えさせるようにする。

下線部…本研究委員会による

資料 5 北による「『主体的・対話的で深い学び』を実現させるポイント」（本研究委員会が整理したもの）

資料 5 から、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、各学習過程において教師が意識すべきポイントが見えてきます。

①からは、「課題把握（動機付け，方向付け）」において、問題解決の見通しをもたせることが重要であることが分かります。児童が問題解決の見通しをもった姿とは、「単元の学習において、これから何をどのように学んでいくのか，どのような方法で調べていくのか，どのような方法でまとめるのか，理解している姿」と捉えます。そのような姿を目指すには、次の 2 点を意識して指導を行ったり，自らの授業を改善したりすることが大切だと考えます。

- 「児童に気付きや疑問をもたせてから，学習問題を設定する。」
- 「設定した学習問題を基に，学習計画を考えさせる。」

では，具体的にはどのような手立てが必要でしょうか。本研究委員会では，資料 6 のような手立てが必要であると考えました。

- ・身近なことを題材に挙げる。
- ・資料提示の工夫（資料の一部を隠すなど）を行う。
- ・題材に対して気付きや疑問をもたせる。
- ・気付きや疑問を基に，調べていきたいことを考えさせる。
- ・学習問題の解決のために何を調べるとよいのかを考えさせる。
- ・学習問題の解決のために何を調べるとよいのか調べる方法を考えさせる。

資料 6 課題把握（動機付け，方向付け）における主な手立て

②からは、「課題追究（情報収集，考察・構想）」において，必要な情報をいかに収集し，分析させるかが重要であることが分かります。必要な情報とは，「学習問題や学習課題（本時のめあて）の解決に必要な情報」と捉えます。分析とは，「収集した情報を基に自分の考えをもつこと」と捉えます。そのような姿を目指すには，次の 2 点を意識して指導を行ったり，自らの授業を改善したりすることが大切だと考えます。

- 「追究活動の中で，学習問題と本時のめあて（学習課題）とのつながりを意識させる。」
- 「調べさせた後に，調べて分かったことを基に，考えさせる。」

では、具体的にはどのような手立てが必要でしょうか。本研究委員会では、資料 7 のような手立てが必要であると考えました。

- ・学習問題を確認する。
- ・学習問題と学習計画を教室内に掲示し、常に振り返らせる。
- ・調べる内容（追究の視点）を確認する。
- ・学習問題や学習課題（本時のめあて）の解決に必要な情報であるのか考えさせる。
- ・学習問題について、学習課題（本時のめあて）とのつながりを意識して記述させる。
- ・事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。
- ・調べた事実と考えを明確に分けさせる。
- ・根拠となる資料を確認する。

資料 7 課題追究（情報収集、考察・構想）における主な手立て

③④からは、「課題解決・新たな課題（まとめ・振り返り）」において、学習問題について振り返り、その答えを明らかにすること、まだ解決できていないのは何かを明らかにすること、自分にできることやよりよい社会の在り方を考えさせることが重要であることが分かります。学習問題の答えを明らかにすると、**「単元の学習を通して身に付けた知識を総合して、自分の考えを表現する姿」**だと捉えます。自分にできることやよりよい社会の在り方を考えるとは、**「単元の学習を振り返って、社会的事象に含まれる社会的な問題を新たに発見し、その問題を自分事として捉え、解決のために何をすべきか考える姿」**だと捉えます。そして、そのような姿を目指すには、次の 3 点を意識して指導を行ったり、自らの授業を改善したりすることが大切だと考えます。

- 「単元全体を振り返り、学習問題について自分の考えを書かせる。」
- 「学習問題について考えさせた後、今後調べるべきことを考えさせる。」
- 「単元を振り返り、日常生活で生かせることはないか考えさせる。」

では、具体的には、どのような手立てが必要でしょうか。本研究委員会では、資料 8 のような手立てが必要であると考えました。

- ・単元全体のまとめ方を例示する。
- ・キーワードを挙げる。
- ・まとめ方に関する判定基準を示す。
- ・ノートやワークシート、掲示物などを活用し、これまでの学習を振り返らせる。
- ・新たな学習問題を提示する。
- ・学んだことと自分たちの生活（自分にできること）とをつなげて考えさせる。

資料 8 課題解決・新たな課題（まとめ・振り返り）における主な手立て

資料 6～資料 8 の手立てを、単元の各学習過程において取り入れていくことで、児童の学びが「主体的・対話的で深い学び」になるとともに、「学習の問題（学習問題）を追究・解決する活動」が充実していくものと考えます。

以上のア～オを踏まえた上で、本研究委員会では、研究を進めるに当たって留意すべきことを以下の5点にまとめました。

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点から、日々の授業の質的改善を図ること。
- ② 問題解決的な学習を充実させることを意識し、単元を通して授業の質的改善を図ること。
- ③ 発問や資料提示、対話的な学習活動の工夫を行い、社会的事象の見方・考え方を児童に働かせること。
- ④ 「主体的・対話的で深い学び」の視点及び身に付けさせたい資質・能力の面から、児童の姿を捉え、授業の質的改善を図ること。
- ⑤ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すことは、資質・能力を育成するための「手段」であり、授業の質的改善の成果は、資質・能力が育成されたかどうかによって判断されるということ。

引用文献

- | | | | |
|--------------------|---|-------------|---|
| (1) 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説社会編』 | 平成 29 年 7 月 | pp. 21-24 |
| (2) 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説社会編』 | 平成 29 年 7 月 | p. 3 |
| (3) (4) 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説社会編』 | 平成 29 年 7 月 | p. 18 |
| (5) 澤井陽介・加藤寿朗 | 『見方・考え方 [社会科編]』 | 2017 年 | 東洋館出版社 pp. 18-27 |
| (6) 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説社会編』 | 平成 29 年 7 月 | p. 4 |
| (7) 中央教育審議会 | 『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 | 別添 3－6 | 平成 28 年 12 月 |
| | | | http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm |
| (8) (9) (10) 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説社会編』 | 平成 29 年 7 月 | p. 17 |
| (11) 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説社会編』 | 平成 29 年 7 月 | p. 20 |
| (12) 北 俊夫 | 『小学校教育課程実践講座 社会』 | 2018 年 3 月 | ぎょうせい pp. 10-11 |